

## 中国 民衆法廷への追加陳述書

(デービッド・マタス、イーサン・ガットマン、デービッド・キルガー)

2019年4月7日

2019年3月26日、英国議会でマーク・フィールド外務・英連邦省閣外大臣は下記のように陳述されました。

「かなりの調査が行われてきています。そのほとんどには強い懸念を喚起するものです。ストラングフォードの議員が述べられたように、デービッド・キルガー氏、デービッド・マタス氏、イーサン・ガットマン氏の分析（『2016年報告書』）は主要な情報源です。外務省の高官は、最新の報告を丹念に精査し、中国臓器移植制度に関する新たな、重要な情報源とみなしています。同報告書は、年間の中国での移植件数、臓器源を実証することは極めて難しいと指摘しています。同報告書は、全く正当に、中国での臓器移植制度に透明性が欠如していることに疑問を呈していますが、同時に、犯行を証明する自明の証拠の欠如を認めています。著者たちは、疑惑を証明する犯罪の決定的証拠（煙の出ているピストル、つまりメス）がないために、仮定および厳格な調査技術には及ばない方法に頼らざるをえませんでした。このような仮定、特に統計的な仮定は、議員の方々のスピーチ内で言及されましたが、仮定に過ぎません。厳格な証拠に基づき作業を進める必要があります — 私どもは、できうる限りの規模の調査に取り組もうとしています。彼らの調査技術には、データ源を適切に確認することよりも、病院の販促資料やメディア報道から臓器移植制度の規模を推量するなどが用いられています」

この陳述は私どもの調査をゆがめて説明するものです。『2016年報告書』は「犯行を証明する自明の証拠の欠如を認めています」と陳述されていますが、このような認識は同報告書には書かれていません。同報告書内の言葉を全てワードで検索できます。これらの言葉は一切使っておりませんし、同じ意味をなす表現も存在しません。フィールド大臣は我々が認めたことのない言葉を我々の言葉として引用しています。

さらには、『2016年報告書』の本質的な内容は、全くその逆で、自明の証拠のみを使っています。脚注2400の内、2200は公式な中国の情報源のものです。我々が使用した数千の証拠には、全て反論の余地はありません。

以下の陳述も正確さに欠けています。

「疑惑を証明する犯罪の決定的証拠（煙の出ているピストル、つまりメス）がないために、仮定と厳格な調査技術に及ばない方法に頼らざるをえませんでした」

疑惑を証明する犯罪の決定的証拠（煙の出ているピストル、つまりメス）がないとは書きましたが、1つの証拠ではなく、全ての証拠からこの結論に達したことがその趣旨です。読み手が推量すべき趣旨ではなく、明瞭に記述したものです。

同報告書の文書は下記の通りです。

「移植濫用が世界的に注視されない理由の1つは、証拠の多さにある。濫用が存在することを示すために、この大量の証拠を整理する必要がある。「煙の出ているピストル」つまりデービッド・キルガーの表現を使えば「煙の出ているメス」が一本あれば、移植濫用の存在を示すことができ、移植濫用に対する我々の戦いは比較的ラクになるだろう。全体として捉える必要のある大量の証拠から移植濫用は存在するという結論を導き出した時、移植濫用に対する懐疑心は、遺憾ながらも必然的に、消えていく」

私どもは、1つの証拠の欠如に、帰結、仮定の立証を結びつけてはいません。フィールド大臣と彼の高官だけが、結びつけているようです。

我々の結論は、1つではなく複数の証拠から得られたと記述した際、問題が生じるとは思いませんでした。我々の結論が仮定から来ているとされる大臣の帰結は、目に余る歪曲です。

「煙の出ているピストル」を問題視されていますが、フィールド大臣と彼の高官は、「煙幕」という形で「煙」を利用されているようです。この（不透明な）「煙幕」の背後にある「なにか」について、下記に取り上げたいと思います。

大臣のおっしゃる「厳格な調査技術に及ばない方法」の意味が明確ではありません。フィールド大臣と高官が「厳格な調査技術に及ばない」とみなされる、どのような調査技術を、我々は使用したのでしょうか？

おそらく大臣は、その前に言及された、我々が「仮定に頼っている」ということを意味されているのでしょう。「仮定」またはその類語は、同報告書で何回か使われています。

ここにその代表的な例を1つ挙げましょう：

「人民解放軍 458 医院（広州空軍病院） 肝腎移植センター：この肝移植センターは 108 の病床と、同時に腎移植 2 件と通常の手術 1 件が行える設備を有する。この部門は主任外科医 1 名、副主任外科医 3 名、医学博士号のスタッフ 2 名、修士号のスタッフ 3 名を備える。ウェブサイトには下記のように記載されている。

「当医院は衛生省が肝移植に認定する医療設備の 1 つです。広東省には現在、肝移植の認定医療施設が 5 つあります。私どもは肝移植に関する豊富な臨床経験を誇ります。当医院の肝移植科では、すでに約 150 件の肝移植を行ってきました。毎年、20 件以上の肝移植をこなしています」

2006 年、『龍源 期間網』に、同医院の肝移植特集として「レンズの背後の医学故事」と題する報告が掲載されている。

「2006 年 9 月 28 日、人民解放軍 458 医院の肝胆外科の孫 寧東 医師が初の写真展を開催。458 医院はこれまで 140 件以上の肝移植を行ってきた」

<https://archive.is/EUQ9a#selection-627.7-627.10>

この報告は、2004 年の最初の肝移植からわずか 2 年で、140 件以上の肝移植を行ったことを明示する。12 年後の肝移植件数は紙面上では増加していない。しかし、増加していなければ、衛生省から移植病院としては認定されない。また、この当医院は年間 20 件（衛生省の認定に必要な最低件数）の肝移植を行ってきたと報告している。この数字に基づくと、2016 年までには 400 件近くの肝移植を行ってきたことになる。（メディア報道を基盤とする低く見積もった年間 70 件という数値を用いると、今日までに 1000 件近くの肝移植が行われたことになる。）2 つの移植を同

時にこなせる同医院の許容設備を考慮し、1つの手術室が1日に1回使用されると仮定し(肝移植用には1つの手術室で十分なはずだが、同時に2件の手術ができる設備があるということなので)、年間800件、つまり、今日までに10,000件の肝移植が行われたという計算になる。同医院が公表する肝移植件数は、実際の移植件数のおよそ70分の1に過ぎない。

これは「仮定」またはその類語が用いられている典型的な例です。移植件数を確定するために、病院ごとに全ての情報をチェックしました。職員数、病床数、メディアの報道、研究報告、院内のニュースレター、認定病院になるために課せられた最低の手術容量など、見つけられる限りのデータストリームを見ていきました。

病院の設備の最低利用数の仮定を基に考慮したデータストリームがあります。数多くの同時に得られた最高利用数の報告を鑑みると、最低利用数を基盤としたデータストリームは過小な見積もりです。この仮定の要点は、認定病院としての地位を確保するための最低基準で設備が使われたとしても、公式発表をはるかに超えた移植件数に達するということです。数多くの算出のうちの1つの算出源として仮定を設定したことで、我々の報告書が仮定に基づくものと示唆することは、虚偽の説明です。

フィールド大臣の陳述からもう一つ、虚偽の説明が見受けられます。「病院の販促資料、メディアの報告から、臓器移植制度の規模を推量する」と陳述されていますが、上記の引用からもお分かりのように、私どもは病院の販促資料、メディアの報告、それ以上のものを参照しています。

結論を導き出すために、いくつかの「証拠の流れ」を生み出しました。フィールド大臣は、これらの「証拠の流れ」のうちの2つを抽出されし、その「証拠の流れ」が我々の結論の立証に至らないとされています。フィールド大臣が「厳格な調査技術に及ばない方法」と言及されるものは、この点なのかもしれません。我々の調査技術ではなく、大臣が偽って主張されているものではないでしょうか。

逆に、フィールド大臣と高官の方々が「厳格な読解技術に及ばない」ことを指摘できるかと存じます。ただ、これは無作法な言い方です。英国政府の外務省がいかにか鈍く、一部と全ての違いも分からないと示唆することは冷淡です。大臣が「一部」を「全て」とわざと履き違えるということは、単に読解技術が劣る問題以上の「ほかの何か」があることが示唆されます。

「ほかの何か」とは何でしょうか？デービッド・キルガーとデービッド・マタスが報告書の初版を発表し、イーサン・ガットマンがこの問題に着手し始めてからほぼ13年が経ちました。私どもはこのような反応に慣れています。中国共産党政権が背後にいることがよくあります。

中国共産党の反応例を挙げます。フィールド大臣の発言とアプローチの面でそれほど違いはありません。デービッド・マタスは2007年5月30日、イスラエルのテルアビブ近くのベイリンソン病院での臓器移植シンポジウムで講演するところでした。イスラエル駐在の中国大使館がシンポジウムで声明文を回覧しました。法輪功学習者からの臓器収奪に関するキルガーとマタスの報告書についてでした。

「情報源の裏付けのない口頭による証拠、確認の取れない証言者、『おそらく』『可能性』『かもしれない』『とされる』などの言葉を基盤とする、多大に説得性のない結論文。これら全ては報告書の真実性に疑問を投げかける」

我々二人の報告書内の陳述すべては、独立した実証が可能であることは、報告書を見れば明白です。口頭による証拠で情報源のないものはありません。証言者の身元を明かし、彼らが話したとおりに引用しています。中国大使館が我々の報告書から引用したとされる単語を、報告書内の結論部分を検索しても、「おそらく」「可能性」「かもしれない」「とされる」は検出されません。中国大使館が言及する報告書内の結論文は存在しません。

英国外務省は、中国の共産主義者とあまり変わりのない形で、私達の報告書の誤った引用や虚偽の説明をしましたが、この2国を比較しても、髪の毛を逆なでするだけかもしれません。米國務省もしくはオーストラリアの外務省のアプローチとの比較ならば認めてもらえる可能性があるかと思われます。

米國務省は、最新の「人権行為に関する国別年間報告」で、2011年以来初めて我々の報告書の存在を認めており、これは賞賛に値しますが、まわりくどい表現をしています。この問題に関しての文をそのまま引用します。

「良心の囚人、特に法輪功メンバーからの、自発的でない臓器収奪で中国政府を譴責し続けている活動家や機関がある。長年にわたる処刑された囚人からの移植のための自発的でない臓器収奪は、2015年に正式に停止されているので、中国政府はこの主張を否定している」

以下のような表現のほうが正確と思われれます：

「政府もしくは機関、そして互いに独立して調査を進める数名の調査者たちが、中国政府による、良心の囚人、特に法輪功メンバーからの、自発的でない臓器収奪があると結論を出している」

我々の調査報告書を活動家や機関による譴責材料とし、（同報告書が帰結している）加害者の否定レベルと同等に置くことで、同報告書を無視し、矮小化し、人為的に信用を失わせています。

同様に、オーストラリアの外務省のグラハム・フレッチャー氏は、2017年、外務防衛貿易に関する代議院合同常設委員会の人権小委員会で下記のように証言しています。

「中国でかなりの数の移植が行われているとする統計値は認識していません。しかしこれらの統計が正確であると受け入れる基盤はありません...良心の囚人からの臓器収奪に関する主張を立証しようと、私どもは中国および他の地域で独自の調査を行いました。臓器収奪を支持する証拠はみつからないという結論に達しました。中国で良心の囚人が殺されているという証拠は何もありません」

この結論は何を基盤とするものでしょうか？フレッチャー氏は、この証言のあと、小委員会への手紙で次のように述べています。

「中国政府が中国での強制臓器収奪に関する報告書を継続的に拒絶してきており、我々の二国間対話にも挙げることはできません」

外務省は、結論の基盤となった調査、分析、問い合わせには一切言及していません。オーストラリア政府の調査は、犯罪を認めるかという問題に直面した際、大量虐殺への共犯を証明する圧倒的な証拠を否定する者に尋ねただけだったようです。

1つのパターンが浮き彫りにされます。中国での臓器のための無実の人々の大量虐殺は、世界中の外務大臣にとって「不都合な真実」を意味します。この犯罪の現実を受け入れるということは、その結果を受け入れることになります。現在も続くこの悲劇の現実を受け入れたら、何もなかったかのように中国政府との国交を続けることはできません。現実が認識されたら、何らかの形で取り

組まなければなりません。存在しないふりをし、考慮するにはおぞましすぎる蛮行を目視したほうが、遥かにラクなのです。

ほぼ13年にわたり、このように取るに足らない理由で我々の報告は棄却され続け、我々も慣れてしまいました。批判の表明だけでなく、警告の目的もこめて、貴法廷が注視されるよう、この文書を提出します。

貴法廷の最終裁定が、中間裁定にみられたように、我々の結論に近いものとなるならば、その最終裁定も、作り物の引用、曲解、虚偽の説明に直面する可能性があります。このような攻撃から完全に防御することは不可能ですが、中間裁定にみられたように、民衆法廷の最終裁定も可能な限り明晰で明白であることを勧めます。

権力に真実をもたらすことだけでは十分ではありません。真実が権力に打ち勝つ必要があるのです。長期的に見て、真実は権力に打ち勝つでしょう。権力は短命であり、真実は永続するからです。しかし、（経済学者の）ジョン・メイナード・ケインズは、「長期的には、我々は皆、死んでいる」という不親切な言葉で現実を思い起こさせています。

「臓器のために良心の囚人を殺害する」という真実が、中国共産党の権力に、今日、打ち勝ったとしても、あまりにも多くの犠牲者にとっては、遅すぎます。真実の受け入れをはばかる障害には、犯罪への共犯を示す証拠に反対する者だけでなく、フィールド大臣が示されたように、実践的に「不都合」であるということも含まれます。